

第5回 最上川下流、赤川大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

- 日時 : 平成30年6月14日(木) 9時30分～10時45分
- 場所 : 酒田河川国道事務所 大会議室
- 委員出席 : 鶴岡市危機管理監、酒田市危機管理課長補佐、三川町長、庄内町総務課主幹、遊佐町総務課危機管理係長、山形地方気象台長、山形県県土整備部参事(兼)河川課長、庄内総合支庁総務企画部長、庄内総合支庁建設部長、山形県環境エネルギー部危機管理・くらし安心局危機管理課長、月山ダム管理所長、酒田河川国道事務所長

■協議会の進め方

1. 議事

- (1) 規約の改正【法定協議会への移行】について
⇒質疑を行い、改正(案)について承認
- (2) 平成29年度の対策実施状況のフォローアップについて
⇒異議なし

2. 今後の予定

- (1) 危機管理型水位計 直轄管理区間設置予定
⇒質疑を行い、内容について了承
- (2) 危機管理型水位計 県管理区間設置予定
⇒質疑を行い、内容について了承
- (3) 防災教育の促進 (指導計画の作成支援等)
⇒異議なし

3. その他

- (1) 平成30年5月18日出水(前線)の概要
- (2) 広域避難の他事例紹介
- (3) その他
 - ・緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信について
 - ・水防活動情報の収集について

以下は、主な発言内容(発言順)

■1. 議事(1)について

～山形県県土整備部参事(兼)河川課長～

- (問) 付則の改正日時が記載されていないが、いつから適用なのか?
- (事) 承認となれば本日から適用である。

■ 2. 今後の予定（1）について

～山形県庄内総合支庁建設部長～

（問）水位観測所のデータと危機管理型水位計のデータはどのように関連づければいいのか？

（事）危機管理型水位計のデータはあくまで住民の避難や水防団が見回りする際の目安として考えていただきたい。イメージとしては堤防天端から水位が何m下がっているかを把握し越水の危険があるか等を知らせるものである。危機管理型水位計のデータは積み重ねれば避難判断水位などと相関がとれると思われる。

（問）自治体が設置した水位計データは見られるのか？

（事）自治体が管理する区間に水位計を設置すると水位データは危機管理型水位計運用システムのクラウドからインターネットで提供される予定である。

他の都道府県や国の機関と共同運用であり、全国の河川データが見られるようになる予定である。山形県でも水位計を設置するが、危険度を4段階で表示するなど、運用しながら調整していく予定である。

（問）使用料については、河川情報センターと契約して支払いを行うのか？

（事）河川情報センターが事務局となっておりクラウドなどの契約を行う。回線はNTTドコモとの契約になる。ただし設置の際は、電波状況の確認が必要である。

■ 2. 今後の予定（2）について

～酒田河川国道事務所副所長～

（問）危機管理型水位計のセンサーの仕様はおおむね決まっており、県管理河川の場合、橋梁に付けると低水位でも測れると思われるが、具体的な設置位置は決まっているか？

（事）設置位置は、水位設定されている河川については基準データから計算して設定する。新しく設置する河川はデータがないので近隣の河川のデータを利用しながら運用し、調整していく。

～三川町長～

（問）現在、県管理河川に危機管理型水位計は未設置ということか？

（事）今後、設置する予定である。

（問）京田川と藤島川は、集落付近と河川敷に設置してもらおうとありがたい。

（事）京田川に3基、藤島川に2基、上流河川にも1基ずつ増やすため、今までより把握しやすくなると考えている。出来るだけ早く（台風シーズンまで）設置していきたい。

■ 3. その他（2）について

～三川町長～

(意見) 山形県でも平成 25 年度に広域の防災計画が改定された。そういった部分では三川町としては他自治体への広域避難ということで、今後いろいろな形で協議を進めていただきたい。地域防災計画やハザードマップの改定を今年度末までに実行したいと考えているので、酒田河川国道事務所や県当局からの支援をお願いしたい。

(事) 了解した。

■協議会委員コメント (発言順)

～山形県県土整備部 参事(兼)河川課長～

平成 32 年度までの整備計画について、国でも力を入れて 2 年前倒しで行っているの
で、今後も遅れがないように取り組んでいきたい。逃げ遅れや被害の最小化に努めて
いきたい。

～山形県庄内総合支庁 総務企画部長～

取り組みとしては「地域ふれあい講座」として防災対策をはじめとした出前講座を行
っている。市町村で行いたい時は声をかけて欲しい。

～山形地方気象台長～

洪水システムを昨年からわかりやすいものに変更し、5 日先までの浸水被害や危険情
報の予測ができるよう表示している。洪水危険度マップは現地の情報確認など事前準
備や早めの避難判断に活用していただきたい。また、融雪効果は付いていないので今後
見直していく予定である。

防災朝会で小学校に支援する機会があれば、ぜひ声をかけてほしい。

～遊佐町～

5 月 18 日の出水は役場で待機していた。降水量よりも融雪の影響があったと考えら
れる。遊佐町も鳥海山という大きな山を抱えているので、日向川・月光川の水位上昇に
注意していた。いざという時の為に 2 市 2 町の例を学びながら対応していきたい。

～鶴岡市～

5 月 18 日 19 日の出水時、排水ポンプ車の提供ありがとうございました。

今回高齢者の避難準備情報を初めて発令し対応した。結果的に避難所を開設したもの
の避難者はいなかったが住民の安全を重視してのことであった。

また、温海では土砂崩れが発生し、住宅の一部損壊があったが人的被害はなかったの
で安心している。

今後は地域住民の洪水認知と的確な避難行動が出来るよう、避難訓練を実施していく。ハザードマップは県の浸水想定区域をもとに、地域住民の声を聞きながら作成していく。

～酒田市～

住民への確実な情報提供をしていく上で防災行政無線だけでは不十分なので、平成28年度から3年計画で防災ラジオの提供を行っている。最終年度である今年度は認知度がまだまだ低いので周知を図っていく。

排水ポンプ車を導入し、浸水時の有効な手段となっている。今後とも活用していきたい。

～庄内町～

5月18日19日の出水は初めての経験で緊張感があった。

ホットラインや国・県・気象台のシステムから情報を収集した。反省点としては避難判断水位付近での指示を出すかどうかが難しかった。水位上昇のマニュアルによると、水位が上がって続ければ避難指示を出していたが、上下を繰り返していたので出さなかった。今後は他市の状況も見ながら判断していきたい。

～三川町長～

先日の出水時、排水ポンプ車を出動していただき感謝している。

平成29年度のフォローアップについて三川町では、水防団の土のう積み訓練を行った。作業手順や今後の災害対応について、団員の共通認識の向上に効果があったと考えている。

課題としては水辺での作業のため、ライフジャケットの装備をはじめ訓練における団員の安全確保が必要。国にも支援申請中である。また、関係機関との情報共有や広域避難対応などご支援いただきたい。

～山形県環境エネルギー部危機管理・くらし安全局 危機管理課長～

県では出水期前に各市町村に対して防災危機管理セミナーを実施している。また、関係機関や自主防災組織に対しても出前講座を行っている。

～山形県庄内支庁 建設部長～

京田川の土砂堆積撤去を今年も実施する。

ホットラインについて避難判断の指示は各市町村の首長さんに判断してもらうことになる。今回の出水について鶴岡市さんが出した避難情報が入ってこなかったのが、情報共有できるよう連絡の仕方を考える必要がある。